

課程 全日制

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2	学年	2	科	全学科
使用教科書	「MOUSA1」（教育芸術社）								
補助教材等									

## 1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

## 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- ・授業に出席して、主体的な音楽活動や音楽表現を望みます。
- ・学習に取り組む態度、提出物、課題の理解度・到達度、実技テスト等で総合的に評価します。
- ・演奏技能を習得し、多様な音楽に触れ合い生涯にわたって音楽を楽しめることを願います。

## 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーテスト</li> <li>・ノート、ワークシートにおける記述内容</li> <li>・演奏の聴取、活動時の観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペーパーテスト</li> <li>・ノート、ワークシートへの記述内容</li> <li>・演奏、発表</li> <li>・アンサンブルでの取り組みや発表などの場面での観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏の聴取</li> <li>・ノート、ワークシートへの記述内容</li> <li>・グループでの話し合いでの発言、活動時の観察</li> <li>・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容</li> </ul>

#### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
一学期	4	曲にふさわしい歌声で表現豊かに歌おう	校歌 花、Lemon、 翼をください	20	・曲種に応じた様々な発声の方法について学び、仲間と歌う楽しさを享受する	・主体的・協働的に歌唱、器楽、及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている (c)
	5	楽譜の読み方・書き方	ソルフェージュ、楽典		・楽譜の正しい読み方や書き方を身に付け、表現に生かすようにする	・表現したいことの知識や技能を身に付けている (a)
	6	ボディ・パーカッションに挑戦しよう	Plymouth Rock Rock Trap		・奏法や表現を工夫し、仲間とリズムアンサンブルを楽しみ、発表する	・アンサンブルに関心を持ち、リズムの特徴や変化を知覚し、その働きを感受しながら、どの様に音楽をつくるかについて表現意図をもっている (b)
二学期	7	表現を工夫してギターやウクレレを演奏しよう	日曜日よりの使者 木星 真珠貝の唄 風になる		・曲にふさわしい奏法、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏やアンサンブルを楽しみ、曲想と楽器の音色や奏法を工夫する	・曲想とギターやウクレレの音色や奏法との関わりに関心を持ち、アンサンブルに取り組んでいる (c) ・音楽を形づくっている要素を知覚、感受し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている (b)
	10	西洋音楽について(作曲家の生涯や作品をたどろう)	J. S. バッハ W. A. モーツァルト L. V. ベートーヴェン		・西洋音楽の流れと、作曲家について、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解する。	・音楽に込められた作曲者の思いを感じ取りながら鑑賞している (c)
	11	オペラについて	「カルメン」 「フィガロの結婚」		・オペラを鑑賞し、物語のあらすじ、歌詞の内容や登場人物の心情について理解する。挿入曲を歌唱する。	・舞台芸術の特徴と様々な表現形態による歌唱表現や器楽表現について理解している (a)
三学期	12	和楽器、日本の伝統音楽や諸外国の音楽に親しもう	箏、三味線 三線、 世界の諸民族の音楽		・我が国や世界各地の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解しながら鑑賞する	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している (a)

	1 2 3	コンサートを開こう	1年間のまとめ 発表会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱、器楽演奏で任意の曲を発表する (個人、アンサンブル)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞曲や演奏について、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている (b)</li> <li>・他者との調和や表現形態の特徴を生かして演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている (c)</li> </ul>
--	-------------	-----------	----------------	--	--	---

合計 70 時間

## 課程 全日制

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2	学年	2	科	全科
使用教科書	高校生の美術 I（日本文教出版社）								
補助教材等	なし（教員作成のプリントを配布）								

## 1 学習の到達目標

<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
---

## 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○美術は全ての教科や生活に関連しています。日常の中に美術の要素を探してみましょう。</p> <p>○美術は制作だけではありません。さまざまな作品の鑑賞を通して美術の幅広い表現方法を知り、関心のもてるものを探しましょう。</p> <p>○授業に必要な教科書や用具を忘れずに準備しましょう。</p> <p>○作品の提出期限は、その授業終了の翌週金曜日です。授業時間内に完成しなかった場合は、放課後に制作して完成させましょう。欠席をした場合は補習に出席しましょう。</p> <p>○各課題の評価規準により評価します。学習内容に合った制作をしましょう。</p> <p>○毎時間パソコンまたはタブレット等を持参しましょう。資料検索や制作途中や完成作品の提出等に使用します。</p> <p>○制作進行状況により、所要時数や課題内容・順番を変更する場合があります。</p> <p>○年間実習費は約4,000円です。共同購入する画材もあります。</p>
---

## 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。</li> <li>意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。</li> </ul>
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業プリント</li> <li>課題の意図を理解し、要点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>題名・テーマ</li> <li>主題やテーマ、コンセプト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想カード</li> <li>工夫したこと・苦労したこと</li> </ul>

	を記入できたか(5%) ・制作過程 用具を正しく効果的に使用 できたか。(5%) ・本作品 課題や表現の意図に応じて 表現方法を創意工夫し、創 造的に制作できたか。 (20%)	を練ることができたか。 (20%) ・下描き 主題やテーマ、コンセプト に合った構想を練ることが できたか。(20%) ・鑑賞文 主題やテーマ、コンセプト を理解することができた か。身近な物の中 美的要素を見出すことがで きたか。自分の言葉で表現 することができたか。 (10%)	と・気付いたこと等を具体 的に自分の言葉で記入して いるか。(10%) ・意欲・提出物・持ち物 粘り強く追及し、期限まで に作品を完成させて提出で きたか。授業に必要な用具・ 教科書・材料を準備できた か。(10%)
--	--	--	--

#### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
一 学 期	4	オリエー ション	「美術とは何 か」 P2~5・150	0.5	・さまざまな美術を知り 美的感覚を養う。	・美術を楽しんで取り組 もうとしている。(c)
		発想・構想： マインドマ ップ	「マインドマ ップで自己紹 介」	0.5	・「好きなもの」から発想 を膨らませる。	・自分を見つめ、発想を 膨らませている。(b)
		素描：デッサ ン	「立方体・球 体・円柱デッ サン」 P132~133・17・ 22~23	5	・透視図法を理解し、幾何 形体を立体的に正確に描 く。 ・鉛筆の削り方・鉛筆の技 法を習得する。	・デッサンの基礎を理解 して正確に描けている。 (a) ・用具を正しく用いて絵 画用に鉛筆を削ることが できている。(a) ・鉛筆の技法を理解し、 効果的に用いている。(a)
	5		「静物3点構 成デッサン」 P132~135	10	・大きさ・形・明度差・質 感に差のあるモチーフを 選択して構成し、光源の方 向を定めて立体感をつけ、 正確にデッサンする。	・形を正確に描いている。 (a) ・明度差をつけている。 (a) ・立体感が出るように陰 影を描いている。(a) ・鉛筆の表現方法を工夫

						<p>している。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形要素を理解し、効果的なモチーフを選択している。(b)</li> <li>・構図を工夫している。(b)</li> <li>・完成度を高めようと制作に主体的に取り組んでいる。(c)</li> </ul>
二期	6	鑑賞：ルネサンス	「ルネサンスの三大巨匠」 P53~55・46・102~103・109	2	・レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロ、ギリシャ美術について理解し、作品のよさを感じ取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルネサンスの三大巨匠や代表作品について理解している。(a)</li> <li>・ルネサンスとギリシャ美術との関連について考えている。(b)</li> <li>・主体的に鑑賞している。(c)</li> </ul>
		絵画・デザイン：色彩	「三原色・色の三属性・色彩効果」 P152~154	2	・色料と色光の三原色、色の三属性、色彩調和の基本、色彩の対比や同化、日本の伝統色を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三原色・三属性・色彩調和・色彩効果を理解している。(a)</li> <li>・配色から色彩効果を感じ取っている。(b)</li> <li>・生活の中に色彩効果を取り入れようとしている。(c)</li> </ul>
	7	絵画・デザイン：構図	「美の秩序」 P. 150~151	1	・自然界に見られる黄金比や美の秩序を理解し、造形要素を感じ取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美の秩序や黄金比を理解している。(a)</li> <li>・身近なものの中に造形要素を見付けようとしている。(b)</li> </ul>
	映像メディア表現：写真	「新聞写真の構図を分析する」 P151・146・54~55・92~95	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画や写真の、構図の工夫や効果を理解する。</li> <li>・新聞写真の構図を分析して工夫や効果を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画や写真の構図の工夫や効果を理解している。(a)</li> <li>・新聞写真から構図の工夫や効果を読み取っている。(b)</li> </ul>	
		「日常の中の美を写真で表す」	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラの機能や効果を理解する。</li> <li>・日常の中から美を感じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメラの機能や写真の効果を理解している。(a)</li> <li>・日常の中に美を感じ、テ</li> </ul>	

		P151・6~11・14~17		取り写真で表す。	ーマを設定している。(b) ・構図や明度を考えて撮影し、トリミングをして構図を決定している。(b) ・主体的に撮影に取り組み、より良い作品にしようとしている。(c)
8 9	デザイン:イラストレーション・キャラクター 絵画:絵巻物・漫画 映像:アニメーション	「イラストレーション・キャラクター・絵巻物・漫画・アニメーションで表現する」 P78~81・29~31・42~43・96~97	8	・イラストレーションが視覚的に伝える効果を理解する。 ・キャラクターが情報やイメージを伝えることを理解する。 ・漫画に用いられる強調や省略・コマ割りなどの手法を理解する。 ・絵巻物と漫画に関連する擬人化・異時同図法・漫画表現を理解する。 ・アニメーションの原理を理解する。 ・コンセプトを定め、白銀比を用いてキャラクターを創造する。	・イラストレーションの役割と表現の工夫について理解している。(a) ・場面のイメージ、感情や動き、時間の表現などを基に、コマ割りや構図、背景などの効果を理解している。(a) ・キャラクターと漫画、絵巻物、アニメーションの関連を理解している。(a) ・コンセプトと白銀比について理解し、生かして表現している。(a) ・コンセプトを基に、キャラクターの形や色彩、性格設定などによる伝達効果を考え、構想を練っている。(b) ・意欲的に制作して完成度を高めている。(c)
9	絵画:キュビズム	「キュビズムで人物の特徴を表す」 P12~13・46 18~21	6	・ピカソの考え方や表現方法を習得する。 ・同一人物を複数の視点から撮影した写真を用いて、分解・再構成・幾何学的な形にして、キュビズムの手法で特徴を表す。 ・モデルの個性や人柄などが表れるように表現やポーズ、角度や背景を工夫する。	・キュビズムの考え方を理解している。(a) ・キュビズムの技法で表現している。(a) ・モデルの特徴を捉え、内面が表れるように表現している。(b) ・主体的に写真や用具を準備している(c)

三 学 期	10	彫刻：塑像・彫像	「立体表現の魅力」 P56~67	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塑像と彫像の違いを理解する。</li> <li>・彫刻作品から生命力・存在感を感じ取る。</li> <li>・抽象表現に関心をもつ。</li> <li>・街の中の彫刻作品を撮影またはスケッチする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塑像と彫像の違いを理解している。(a)</li> <li>・対象の表現や動きから感じ取ったイメージなどを基に、形や質感、重心などの効果を考え、鑑賞している。(b)</li> <li>・身の回りの彫刻作品主体的に鑑賞している。(c)</li> </ul>
	11	絵画：トリックアート 絵画：シュールレアリスム	「トリックアート・シュールレアリスムで描く」 P44~45 127~129・153 ・24~25・36	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・錯視を利用し、夢を形にするなどして、現実にはあり得ない世界を描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・錯視を理解している。(a)</li> <li>・構図・色彩・明度等の表現方法を工夫して制作している。(a)</li> <li>・発想を広げ、テーマを設定し、構想を練っている。(b)</li> <li>・主体的に制作して完成度を高めている。(c)</li> </ul>
	12	デザイン・工芸：文様	「生活を彩る模様・日本の伝統文様」 P82~83	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁紙や包装紙など生活を彩る模様の役割と制作方法を知る。</li> <li>・日本の伝統文様の成り立ちや願いを理解し、身近なものの中から探す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある文様を探し、成り立ちや願いを調べて理解している。(a)</li> <li>・用途により用いられる文様が違うことを考え、鑑賞している。(b)</li> <li>・生活の中にある模様や文様について、主体的に探している。(c)</li> </ul>
		鑑賞：浮世絵・ジャポニスム・歌舞伎	「浮世絵・印象派・歌舞伎」 P26~41・47~52	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浮世絵が発展した時代背景を考えながら、テーマや構図、色彩などの効果、版画の技法に着目して鑑賞する。</li> <li>・浮世絵がゴッホなどの印象派の画家に、構図や色彩などの影響を与えたことを理解し、共通点を見付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浮世絵と印象派の特徴や関連を理解している。(a)</li> <li>・浮世絵版画の発展の歴史や、作品のよさや美しさを味わい鑑賞している。(b)</li> <li>・美術文化の継承と創造について考えている。(b)</li> <li>・身近なものの中に根付いている日本文化を楽しむ</li> </ul>



				<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎と現代のアニメーションや戦隊物などに通じる、色彩や名乗りを理解し、美術文化の継承と創造について考える。</li> </ul>	もうとしている。(c)
1	デザイン: 商品企画	「パッケージデザイン」P68~77・149・84~89	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既製品のデザインの形や色彩、キャッチコピーから、コンセプトと効果を読み取る。</li> <li>・対象者や目的などのコンセプトを明確にし、商品をデザインする。</li> <li>・ロゴマークやキャッチコピーの役割を理解して創作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既製品からデザインのコンセプトと効果を読み取っている。(a)</li> <li>・明確なコンセプトを設定し、色彩効果などを考え、目的に合ったデザインをしている。(a)</li> <li>・コンセプトに合った商品のパッケージやロゴマーク・キャッチコピーの構想を練っている。(b)</li> </ul>
2	デザイン: 建築	「ガウディの建築」P90~91	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガウディのデザインに見られる自然の造形の特徴や美しさ、装飾などの効果を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガウディの世界遺産とモチーフを理解している。(a)</li> <li>・ガウディのデザインのよさや美しさ、自然の形体の生かし方などの特質、美術文化の継承と創造について考えている。(b)</li> <li>・主体的に鑑賞し、感じたことを自分の言葉で表現している。(c)</li> </ul>
	映像: 空間演出	「空間演出・インスタレーション・パフォーマンスアート」	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像表現や彫刻などにより、場所や空間全体を作品として体験させるインスタレーションを楽しむ。</li> <li>・芸術家自身の身体が作品を構成するパフォーマンスアートを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の表現方法の多様性を感じ取って鑑賞している。(b)</li> <li>・様々な美術表現を楽しもうとしている。(c)</li> </ul>

	鑑賞：信州ゆかりの作品	「長野県版アートゲーム」 P102~126	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州ゆかりの作家や作品、美術館を知り、美術に対する関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。</li> <li>(b)</li> <li>・主体的に作品を鑑賞している。(c)</li> </ul>
	まとめ	「生活の中の美術」 P155~157	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の中に色彩や形などの造形要素を見つけ、楽しみながら生活に生かす。</li> <li>・作品を大切にす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまなものの中に美術の要素があることを理解している。(a)</li> <li>・作品を大切にし、生涯に渡って美術を愛好する心情を養おうとしている。(c)</li> </ul>

合計 70 時間

課程 全日制

教科	芸術	科目	総合音楽	単位数	3	学年	3	科	全学科
使用教科書		なし（教員の配布資料、プリント等を使用する）							

### 1. 科目の目標と評価の観点

目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			
	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
評価の観点	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。

### 2. 評価方法 ※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
学習状況の観察	◎			○	出席状況・授業態度
演奏練習	◎	○	○		歌唱・器楽全体練習
実技テスト	◎	◎	◎		声楽演奏・器楽演奏（個人またはグループ）
提出物	◎			◎	鑑賞の記録等

### 3. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に出席して、主体的な音楽活動や音楽表現を望みます。</li> <li>・学習に取り組む態度、提出物、課題の理解度・到達度、実技テスト等で総合的に評価します。</li> <li>・演奏技能を習得し、多様な音楽に触れ合い、生涯にわたって音楽を楽しめることを願います。</li> </ul>
--

#### 4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定 時数
一 学 期	4月	・楽典、楽譜の読み方・書き方 (音楽記号について学び、楽譜に慣れる)	実技試験 筆記試験	30
	5月	・日本歌曲や諸外国の歌曲、オペラやミュージカルの挿入曲に親しむ		
	6月	・舞台芸術について (オペラやミュージカルについて学び、作品を鑑賞する。 作曲家や時代背景、登場人物の心情について感じ取り、言語化してまとめる)		
二 学 期	7月	・器楽演習①、コードネームについて (ギターやウクレレ等、楽器の奏法を習得し、弾き歌いを楽しむ)	実技試験	55
	8月	・器楽アンサンブル (お互いの音を聴き合い、全体の響きや曲想にあった音楽表現を工夫して、アンサンブルを楽しみ発表する)		
	9月	・鑑賞「日本の響き、世界の民族音楽」 (日本の和楽器や世界の諸民族の音楽に親しむ)		
	10月	・器楽演習② (キーボード、ギター、ウクレレ等 ミュージックベルの演奏)		
	11月			
三 学 期	12月	・コンサートを開こう	実技試験	20
	1月	(任意の曲を個人、グループで演奏して、お互いの演奏を聴き		
	2月	合う)		
	3月			

合計 105 時間

課程 全日制

教科	芸術	科目	総合美術	単位数	3	学年	3	科	全学科
使用教科書		なし（副教材）色彩検定2級・3級テキスト&問題集							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	色の表示、色彩心理、色彩調和、ユニバーサルデザイン、ビジュアルデザイン、メディアデザイン、ファッションと色彩、インテリアと景観色彩、デッサンの学習を通して造形的な見方・考え方を働かせ、工業や生活の中の美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 造形的な創造活動の基本となる諸要素の理解を深め、感性や造形感覚と創造的な構成の能力を高める。 (2) 視覚的な伝達効果を主とするデザインについて理解を深め、デザインにおける計画・表示と表現の能力を高める。 (3) 自然や生活環境と造形との調和について理解を深め、造形の能力を総合的に生かす実践的な能力と態度を育てる。 (4) 造形表現の基礎となる観察力や把握力を深め、形体や空間などの的確な表現力を高める。 (5) 表現及び鑑賞に関する造形的な思考力、判断力、表現力等を養う。			
	① 美術への関心・意欲・態度	② 発想や構想の能力	③ 創造的な技能	④ 分析・鑑賞の能力
評価の観点	美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

2. 評価方法 ※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

評価方法・観察	①	②	③	④	具体的な項目
学習状況の観察	◎				自己評価・丁寧さ・授業態度・準備物かどうか。
作品		◎	◎		発想力・構想の能力・創造的な技能が発揮できたか。課題の意図に沿っているか。創意工夫をして完成度を高められたか。
考査			◎		造形要素や美術史について理解し、活用できたか。
分析・鑑賞文				◎	作者の意図を理解して表現方法を分析したり、感性をはたらかせて鑑賞することができたか。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

身の回りの造形物や自然をよく観察し、心に響くものを写真撮影して集める。
-------------------------------------

4. 年間学習計画

	月	学習の内容	考查範囲	時数		
一 学 期	4	美術の 役割	「美術と産業・生活の中の美術」 「STEAM」	自主作成プリント	1	
		色彩① (色彩)	「光と色(色はなぜ見えるのか、眼のしくみ、 照明と色の見え方、混色)」	P. 24~35, 38~41, 48~49, 53, 61~68	29	
	5	検定3 級相 当)	「色の表示(色の分類と三属性、PCCS、JISの 慣用色名①)」 「色彩心理(色と心理①)」	P. 72~103, 114~125  P. 13~152, 157		
	6		「色彩調和(配色の基本、色相やトーンから 配色を考える、配色の基本技法①、配色イメ ージ②)」 「ファッションと色彩①」 「インテリアと色彩(インテリアのカラーコ ーディネーション、心理的効果)」	P. 160~182, 193~197  P. 220~222, 228~232, 237~238  P. 242~250, 263~264		
二 学 期	7	鉛筆デ ッサン	「3点構成デッサン(モチーフ選択、構 図、明度、質感、透視図法、光と影、鉛筆 の技法)」	自主作成プリント	15	
	8					
	9	ビジュ アルデ ザイン	「ポスター(情報の視覚化、伝達、テーマ設 定、コンセプト、ターゲット、キャッチコピ ー、構図、配色)」	自主作成プリント	25	
	10	色彩② (色彩)	「ユニバーサルデザイン、(身の回りの色の 見え方、色覚説)」	P. 16~22	15	
	11	検定2 級相 当)	「光と色(光の性質と色の見え方、照明の 性質、視覚系の仕組みと色の見え方)」 「色の表示(マンセル表色系、慣用JISの 慣用色名②)」	P. 27, 29, 31, 36~37, 42~47, 50~52, 54~60, 69~70  P. 104~113, 126~136,		
三 学 期	12	色彩② (色彩)	「色彩心理(色と心理②)」 「色彩調和(自然の秩序による色彩調和、 配色技法②、配色イメージ②)」	P. 153~156, 158 P. 183~192, 198~202	19	
		1	級相 当)	「ビジュアルの色彩(ビジュアルデザイン と色彩、メディアデザインと色彩)」	P. 204~218	
		2		「ファッションの色彩②」 「インテリアと景観色彩(住空間のインテ リア、インテリアの配色構成、景観と色 彩、地域の景観色彩、景観色彩の基礎知 識、景観色彩設計)」	P. 223~227, 233~236, 239~240  P. 251~262, 265~278	
		1		「著作権(知的財産権、肖像権)」	自主作成プリント	1

合計 105 時間